

2005年1月17日発行

鵬 鷲

HOSAI

「鵬鷲」鵬は翼の巾3,000里、一飛びで90,000里という伝説上の中国の鳥。そこで鵬（おおとり）が飛ぶ（＝はるかなかなたの）空のことを言う。「際限のない」という意味でも使われる。私たち経済開発同友会の目指す活力ある八代づくりも、言わば際限のない努力を必要としますが毎年この機関誌を出す事によって一步一步目標に近付きたいものです。その願いを込めて誌名を「鵬鷲」と名付けました。尚、題字は本島小夜子先生にお願い致しました。



八代経済開発同友会
広報誌第1号（通巻第91号）

<http://www.ytnet.or.jp/ykd/>
E-mail:ykd@ya.magma.ne.jp

謹賀新年



八代経済開発同友会
代表幹事 上村 憲助

明けましておめでとうございます。

昨年は、日本各地が台風や地震などの災害に見舞われ、何かと禍の多い一年間でした。八代でも台風災害が発生し、会員の皆様方も多かれ少なかれ被災された事と思いますが、致命的な被害が出なかった事は幸いでもありました。

しかし、私たちを取り巻く経営環境は、依然として厳しいものがあります。中央の大手企業は既に最悪期を脱出して、最高益を更新する企業も数多く見られますが、地方の中小零細企業では、その恩恵を浴するに至っていないのが実情です。しかも国による三位一体の改革は、基礎体力の乏しい地方自治体や私たち地場企業にとり、過酷な状況を招きかねない制度でもあります。

このように、私たちの周辺は依然として高いハードルが待ち受けたままではあります。だからといって、お互いが現状を嘆き合っている、状況が良くなる訳でないのは、当然の事でもあります。自社企業の経営に全力を傾注しても、思ったほどの成果が得られず、その結果地域の浮揚もままならないのでは、愚痴の一つも出てくるのも仕方ありません。

しかし、そのように自企業だけでは結果を出しにくいから状況だからこそ、私たち同友会の存在意義もあるのではないかと考えます。同友会のどのような活動が、会員企業の活性化に繋がるのか、また地域の振興に結びつくのか、私たちは明快な回答を見出すには至っておりません。だからこそ会員の皆様方の英知を、同友会に結集しなければならないと考えます。そして4月からは一川誠一新代表幹事のもと新しい体制がスタートします。平成17年が同友会にとり、飛躍の一年となりますよう祈念致し、年頭のご挨拶と致します。

八代市の合併問題を考える

代表幹事
上村 憲 助

私たち同友会は、大多数が地場企業経営者であり、しかも八代市郡を商圈とする企業が大半をしめます。統計資料によりますと、この半世紀に亘る八代の商圈人口は、10年単位で見た場合、一時期を除いて5%前後の減少で推移してきましたが、今後は10%前後の猛烈な人口減少が八代を襲う事になります。という事で将来、八代では急激に地域経済力が縮小する可能性が大いに懸念される人口予想ともなっています。

この危機を解消するには、私達は国や地方の財政難に端を発する国家主導の広域合併だけの理由によらず、さらに積極的に私たち自身の問題として、合併を捉える必要があります。その結果、広域合併による効率のよい地方自治の実現を確かなものにして、地場企業が振興する土壌を作り、そして地域住民が生き生きと生活できる八代を、確実に作り上げなければならないという思いで一杯です。その思いこそが、私たち同友会がこの8年間に亘って訴え続けてきた合併運動の骨子でもありました。

ところで合併協議会の進捗状況は、現実にはたいへん厳しいものとなっています。これまで何10年という間、別々にやってきた自治体ですから、当然制度の違い、状況の違い、背景の違い等超えなければならない問題が山積しており、簡単に合併を論じる事ができない事は十分承知します。ですが同じ熊本県内でも、利害を超えて大同団結して、続々と新しい自治体が誕生しています。なぜ他所の地域でできるのに、八代がこれだけ難航するのか残念でなりません。

1市2町3村での新しい八代市が誕生したからといって、それがバラ色の将来を約束するものでない事は、大多数の人が既に理解していると思います。今回の合併は、今後マイナスで推移する地勢を、どうにかマイナスでの推移だけは食い止めるものでも考えられます。従ってもし合併が流れる事にもなれば、結局は八代市にとっても大きな痛手になるものと思います。更には、合併できなかった場合、地域間で大きなしこりがいつまでも残るでしょうし、他地域には合併も出来ない狭量な地域住民の集まりとしての、八代の悪評が定着するでしょう。そして最も恐れる事は、国や県の関心が合併自治体に優先的に向けられ、合併しなかったりできなかった地域が、その結果ワリを食ってしまいかねない事です。またこれまで、この合併に関して10数億円の経費が投入されてきていますが、もし合併破綻の場合、誰がどのようにその経費を補填する事になるのでしょうか。このように合併できなかった場合の損失は、限りなく大きなものがあります。合併協議会では、その点も念頭において論議されるべきであると考えます。

有利な合併特例債が活用できる合併までに残された時間は、もうわずかしかありません。ですから合併問題に決定権を持つ関係者の方々には、速やかに問題解決に当たって頂くよう強く要望します。そして、関係者の方々の大英断により、ここに掲げた事が全て杞憂に終り、新生八代市が無事誕生する事を切に望む次第です。

八代亜紀と共に明日の八代を作る会

経済三団体が中心になって活動している「八代亜紀と共に明日の八代を作る会」が、結成して早くも2年が過ぎようとしています。

初年度は、八代さんの絶大なご協力で行われた九州スリーデーマーチでの無料コンサートなど華々しい話題を提供しましたが、本年度もいろいろな活動を行いましたので、紙上でご紹介します。

①「不知火酒」のCD

1万枚販売キャンペーン

演歌にご当地ソングはつきものですが、昨年7月に八代にとっても待望のご当地ソングが誕生しました。もっとも八代さんに言わせると、ご当地ソングではなくて、ふるさとソングと言うのだそうですが、それが「不知火酒」でした。八代さんが歌番組出演やコンサートでの曲目紹介時に、あわせて八代の話をされる、そのアナウンス効果は絶大なものがあり、私たち市民にとっても、これほど大きな援護射撃はありません。そのような事もあり、私たちも八代さんを応援しようという事で、三団体の



ほか八代市役所、FM八代もキャンペーンに参加して取り組みました。結果は1万枚には届きませんでした。現時点で7,000枚程度は販売されたものと思われ。会員の皆様方のご協力もあり、同友会でも1,000枚引き受ける事ができました。

②八代亜紀絵画展と

八代亜紀絵画コンクール開催



いずれも昨年に引続き2回目の開催でした。八代亜紀絵画展については、会場に足を運ばれた方にはお分かり頂けるとは思いますが、八代さんの素晴らしい作品群が来場者を十分に堪能させたものと思います。また絵画コンクールは今回から小中高校生だけではなく一般の部も設けて行いました。なお小中学生については、夏休みの自由課題に取り上げて貰うべく学校にお願いして、作品を集めていますが、私たち以外にも実に多くの団体が、作文・書道・ポスター・標語などの募集協力を学校に依頼している状況です。という事で、なかなか作品が集まりにくいという大きな問題点も抱えています。もっと盛り上がったコンクールにする為には、もう一工夫が必要に思われます。

肥薩おれんじ鉄道沿線ネットワーク講演会

九州新幹線の部分開業により、営業を開始した肥薩おれんじ鉄道ですが、3セク経営ですので、八代市も当然経営者の一員です。同友会では2年前に、長野新幹線の開業により、並行在来線が3セク化された「しなの鉄道」を視察し、3セク並行在来線の経営がいかに厳しいかを目の当たりにしてきました。

「肥薩おれんじ鉄道」の発足状況が、「しなの鉄道」のそれと正に同じという事で、同友会でも「肥薩おれんじ」に大きな関心を寄せると共に、応援体制を取っていかなければならないという考えのもとにスタートしたのが、肥薩おれんじ鉄道沿線ネットワーク構想です。

少子高齢化により地方がジリ貧になるのは、火を見るより明らかです。また各地域の経済団体や町おこし団体が、いくら頑張ったとしても、それぞれの殻に閉じこもった中での活動では、自ずと限界があり、地域浮揚の決め手にはなりそうにありません。そこで肥薩おれんじ鉄道沿線の各団体が、連携して活動し、そしてお互い補完しあう事ができれば、地域浮揚の一助にもなりえるし、肥薩おれんじ鉄道の利用促進にも繋がるのではないかとというのが、この構想の骨子となっています。

現在は、まだ八代市内の団体への呼びかけしか行っていませんが、10月から11月にかけて行われた熊本県民文化祭が、八代・芦北・水俣地区での合同開催だった事もあり、文化祭の協賛事業として、10月22日に体験型観光をテーマに講演会を行いました。講師の体

験教育企画代表の藤澤安良氏は、「地域に伝わる本物の暮らしの営み、誇りを伝えることが旅人の感動につながる。『観光』から感動の交流を生み出す『感交』を目指すのです。うわべだけまねても駄目。本物だけが生き残る。カギを握るのは人。旅人の心を動かすのは、地域の人々の心」と熱く訴えられました。講演の中で紹介があった体験型観光は、何ももの珍しいものではありませんでしたので、この沿線にも眠れる体験型素材が数多くある事を示していました。

この講演会を開くにあたって、参加の呼びかけを芦北・水俣地区へは当然の事として行いましたし、鹿児島県の薩摩川内市や阿久根市に対しても行いました。その結果、当日は有難い事に阿久根市からの参加もありました。一日も早い、ネットワーク化が望まれます。この講演会開催には、八代市役所、NPO法人のネット八代、八代青年会議所、日奈久温泉観光協会、八代の環境を考える会などの多大なご協力がありました。紙上を借りて感謝申し上げます。



平成16年度 定時総会報告



平成16年度定時総会が、4月20日に開催されました。前年までは8委員会で構成された同友会でしたが、本年度は6委員会に絞り込み、スリム化した組織で1年間乗り切る事になりました。これは会員数が減少した事もありますが、厳しい経済情勢を受けて、会員に時間的余裕が取れなくなってきているのを反映したものです。その代わり各委員会の副委員長まで幹事として、会の運営に携わる事となりました。

九州新幹線の新八代～鹿児島中央の部分開業、肥薩おれんじ鉄道の開業後一月余りの時期での総会開催という事もあり、期待と不安が入り混じった中での事業案審議でもありました。前年度は同友会創立40周年という節目の年でもあり、比較的予算にも恵まれました。しかし平成16年は通常年度なので、特別財源もまた特別企画もない状況でのスタートでした。という事で平成16年度の同友会の活動こそが、現在の同友会の掛け値のない評価という事で迎えた総会でもありました。

5月例会報告 5月10日(月)



平成16年度の初の例会となったのが、5月10日の八代高校大畑誠也校長を講師にお招きして開催した5月例会でした。事前にバイタリティの塊みたいな校長先生との噂は聞いていましたが、聞きしに勝るパワー溢れる先生の熱演に、時間の経つのを忘れるほどに会場が盛り上がりました。

大畑校長は、八代高校が校長としては4校目の赴任校ですが、必ず作って来られているのが、きちんと印刷製本された年間活

動報告書です。大畑先生のお話によると、企画立案から実施に至り、そしてその反省までが、しっかりと活字に表せるようでない、本当の成果は得られないという事になります。そして教える者が夢を持たなければ、生徒も夢を持たないとも言われました。

大畑先生が生徒を対象に掲げられているテーマが「悪戦苦闘能力」であり、具体的な目標として「挨拶」「体力」「感性」「集中」「思考」の5項目を設定されています。学校社会も企業社会も極めて共通しており、学校現場の話が私たちにもそのまま通用する事を痛切に感じた例会でもありました。

7月例会報告 7月8日(木)

7月8日に準公開例会として、商工会議所、市役所、各商店街の皆様と共に、県民百貨店くまもと阪神の代表取締役社長丸本文紀氏をお招きして、「行政依存型からの脱却・経済界のあるべき姿あるべき姿」の演題でご講演を頂きました。社長ご自身の経歴を交えての自己紹介の中で、「安定というものはない。安定とは幻想に過ぎず、常に変化は続くものだ。その変化を取り入れて自分自身が、その変化の中心になっていく。変化の波の頂点を見極め、その頂点を渡って行く事でその波を掴む事ができる。」と、示唆に富んだお話を頂きました。郊外型ショッピングセンターの戦略や、中心地百貨店としての今後の課題と、阪神百貨店の戦略と課題などをお話頂き、私たちにとっても改めて現状を見直す良い機会となりました。



9月例会報告 9月14日(火)

通常の例会では、講師を迎えて一方的に話を聞くだけ。だからと言って委員会でいろいろ意見を、とは思ってもそれもなかなかという会員が多いのも事実。そこで9月14日に開催した例会では、日頃同友会について思っている事を、大いに語り合って貰おうとディスカッション例会を行いました。しかも本音で話すには多少のアルコールも必要という事で、同友会では異例のアルコールも提供しての企画であった為か、議論も盛り上がり活発な意見が飛び交いました。当日のテーマは、「同友会の存在意義について」と「同友会の具体的活性化策について」というもので、紙面があれば詳しく紹介したいところですが、当日の議論内容はきっと今後の活動に活かされてくるものと思います。

10月臨時総会報告



同友会の会期が4～3月であるのは、会員の皆様方は当然ご存知の事だと思います。4月から全力投球で活動を行うには、1月に役員を決定して3月までに事業計画をしっかり練っておかなければなりません。その為には1月にきちんと組閣が出来るよう10月には次年度代表幹事の選任が必要になってきます。

という事で、10月27日に次年度代表幹事を選ぶ為の臨時総会が開催されました。そ

して議事に沿って審議が進み、平成17年度の代表幹事に、一川誠一副代表幹事が決定しました。4月には2年振りに新代表幹事が誕生します。一川副代表幹事の活躍を期待します。

11月例会報告 11月17日(水)



11月17日に、中島隆利八代市長を講師に招き、いま最もホットな話題である市町村合併と、9月から活動を開始した八代シティー・プロモーション・センターの今後についてお話を伺いました。合併特例法により、平成17年3月までに合併についての所定の手続きを済ませる事により、合併後に有利な合併特例債を受ける事が可能となります。有利な合併特例債を受けられるので、合併を推進するという訳ではありませんが、

合併が大きなチャンスである事は間違いありません。また八代の活性化には官民一体となった取り組みが必要ですが、その試金石ともなるのが、このシティプロ構想です。同友会では、現在行っている高校サッカー大会のように、宿泊を伴うイベントを模索中です。ぜひともシティプロが、その受け皿となるよう育てて欲しいものです。

12月例会報告 12月14日(火)



12月14日、NPO法人「まちづくり健康の郷」理事長の三上晋氏、八代工業高等専門学校（はつだいこうがうこうとんがく）の佐藤泰生校長先生を始めとする3名の先生方の合計4名の講師をお迎えして、新八代駅前の開発問題をテーマに例会を開催しました。新八代駅前は新幹線開業後も、手付かずの状態であり、このままでは開発が進んだとしても虫食い状態になる事が懸念されます。そのような事で、八代の活性化をテーマに掲げる「まちづくり健康の郷」

が、八代高専の力を借りて進めている、新八代駅前の農業公園構想をご紹介頂きました。「まちづくり健康の郷」では、11月に地権者を対象に既に説明会も開いたとの事でした。国や自治体の財政難などで大型プロジェクトが進めにくい昨今、NPOを巻き込んだ官民一体となった新たな取り組み方などについても、調査研究が必要に思われます。農業公園構想だけではなく、そういった運動推進の点から見ても、示唆に富み有意義な例会となり、平成16年を終える事ができました。

IT セミナー開催 6月25日(金)



6月25日、広報情報委員会が企画して、会員研修セミナー「IT実践塾」が開講されました。マイクロソフト社の派遣講師森田欣展（よしのみり）氏より、同友会会員並びに会員企業関係者56名を対象に、ITって何？に始まり、企業のIT導入の大切さ等をわかり易く事例を交えて2時間に亘り講演をして頂きました。「経営者が強力なコミットメントを持って企業を引っ張って行けば、

ITは強力な武器になりますよ。」というお話に、もっと沢山の方に聞いて欲しかったとの、強い思いで一杯です。第2弾を企画できればと思います。

第9回八代・天草架橋旗高校サッカー大会開催

同友会が主力メンバーとなっている八代天草架橋建設促進民間協力期成会が主催する八代天草架橋旗高校サッカー大会が8月25日から3日間に亘り開かれ、福岡県から参加した東福岡高校が栄冠を手にして無事終了しました。

八代天草架橋の実現を願って、行政と民間でそれぞれに期成会が結成されて、15年前後の歳月が過ぎました。国の財源難などで大型プロジェクトが大幅に見直される中、八代天草架橋実現の可能性については曙光すら見られません。しかし、私達は長期展望に立った運動を展開して、実現を目指さなければなりません。そのような事で未長く、また根気強く架橋運動を啓発すべく始めた架橋旗高校サッカー大会も、はや今年で9回目を迎えました。



そして今年新たな試みとして、このサッカー大会を題材にFM八代で特別番組を制作しました。往時の蛇籠港や八代天草航路の話も盛り込み、八代天草架橋の必要性を訴えた「未来へキックオフ～蹴ったボールがアーチを描く」が、9月3日に放送されました。きっと多くの市民の耳に届いたものと思います。

またこのサッカー大会により、例年多くの高校生が宿泊しますが、今年も参加32校中17校が熊本県外校といった按配で、延べ1,000人以上の宿泊がありました。八代で毎年1,000人以上が宿泊するイベントは、そうそう考えられませんので、地域活性化にも大きく貢献している事は間違いありません。

ところで大会に関してですが、サッカーはまるで素人の民間期成会ですから、従来運営面で随分苦勞してきました。そこで今年は八代市サッカー協会にお願いして、企画・運営両面でお骨折り頂きました。また近隣校の監督さんには特にご助力頂き、これまでにない充実した大会を開催する事ができました。



あと残された課題は、八代高校勢の優勝です。来年は第10回で区切りの大会になります。この課題はその記念大会で是非実現して欲しいものです。

● 八代城復元整備事業 ●

同友会が、20年来取り組んできている八代城の復元整備問題ですが、昨年3月末に中島市長、小菌市議会議長宛にそれぞれ陳情書を提出しました。その内容は、八代城（中世古麓城、近世麦島城、松江城）復元整備に関する専門機関を設置の上、事業の策定とその推進を要望するものでしたが、特に中島市長宛てには、少し異例ではありますが要望書を添付し、その中で次の3点につき質問が添えられました。

- ①行政は街づくりに八代城をどのように生かし役立てようと考えているか。
- ②八代城復元整備に関する総合的な管理運営組織として「八代城跡復元整備室」を設立し、関係各部局との調整を行う公的機関を作れないか。
- ③県事務所跡地にあった北御門櫓、畳櫓、水堀、石垣等の復元ができないか。

これらについては、6月市議会終了後、市議会で陳情を採択した旨の通知がありました。更に7月16日上村代表幹事以下5名で、市役所を訪れ中島市長と面談しました。その中で中島市長から回答として、行政では古麓城、麦島城、松江城をセットにして城跡問題に取り組んでおり、まずは国の指定を受けるべく考えているとの事でした。さらに同友会が提案する「八代城跡復元整備室」については、その前に役所内に平成16年度内にプロジェクトを発足させて、城跡問題に取り組みたいとの話でした。

最後に上村代表幹事からプロジェクト発足後は、速やかに民間との意見交換の場を設けて欲しいとの要望と、国の指定等に向けて同友会で助力できるものがあれば積極的に関わる旨の発言があり面会が終了しました。市役所内での、1日も早いプロジェクト立上げが望まれます。



税金セミナー開催 7月26日(月)



7月26日、会員27名が参加して、企業活性化委員会の企画のもと「税金アカデミー塾」が会員でもある上原税理士事務所の上原治所長を講師に迎え、良くなじみのある税金クイズを交えて、90分に及ぶセミナーが開催されました。

当日の本题は、上手な税務調査の受け方についてでしたが、事前調査はかなり深く調査しており、絶対に嘘は通らない。ごまかそうとせず、正直にむしろことらから相談するような気持ちで、

会社の財務について、健康診断を受けるような気持ちで取り組んで下さい。そして会社は社長の器以上にはなりませんと、示唆に富んだお話で締めくくられました。

尚同友会には3名の税理士さんがいらっしゃるという事で、その後第2弾として宍倉渉副代表幹事に、相続を中心とした事業継承のテクニックを、また第3弾として磯部季男会員に消費税全般について、そして総集編として会員からの質問に答える形で磯部会員に第4弾もお引き受け頂き、盛況を博しました。

納涼ビール列車 (不知火海サンセット&花火大会)



肥薩おれんじ鉄道への支援事業と会員相互の親睦を深める目的で、八代海のサンセットと共に花火大会（8月8日はくま川祭り花火大会当日）まで納涼ビール列車で楽しもうと贅沢な企画でした・・・がしかしその試みを打ち砕くような曇り空・・・そして雨。それにも拘らず車中は浴衣姿のおれんじレディーの参加もあり(?) 大変な盛況振りでした。

残念ながら八代海のサンセットは望めませんでしたが、車中よりの当日開催の花火大会を鉄橋の上から鑑賞するという当初の目的は見事達成することが出来ました。またFMやつしろの同時中継を通して、肥薩おれんじ鉄道の企画列車の宣伝効果をも発信することが出来たと思います。第2弾、第3弾と「肥薩おれんじ鉄道」を活用しつつ、「やつしろの発見」「マイレール肥薩おれんじ鉄道」を市民に発信します。

新 入 会 員 紹 介

森 下 三 男 もりした みつお 昭和29年10月8日生
木村建設株式会社 代表取締役専務（総合建設業）

半 田 由佳里 はんだ ゆかり 5月18日生
しゃんて 店主（飲食業）

松 中 敏 治 まつなか としはる 昭和23年1月2日生
株式会社 松中土建 代表取締役（土木工事業）

小 川 浩 司 おがわ こうじ 昭和36年11月15日生
食房 小川 店主（飲食業）

頼 藤 浩 よりふじ ひろし 昭和37年7月22日生
資頼藤商店 代表（あゆ卸・小売・飲食業）

川 瀬 次 義 かわせ つぎよし 昭和24年9月26日生
居酒屋 川 店主（飲食業）

堀 口 晃 ほりぐち あきら 昭和37年10月26日生
（有）堀口陶器本店 専務（販売業）

交 替 会 員 紹 介

土 倉 義 浩 とくら よしひろ 昭和40年10月23日生
東京海上日動火災保険株式会社 八代支社長（損害保険業）

濱 田 安 夫 はまだ やすお 昭和27年8月25日生
熊本中央信用金庫八代支店 支店長（金融業）

溝 辺 辰 彦 みぞべ たつひこ 昭和27年10月19日生
熊本ファミリー銀行八代支店 支店長（銀行）